平成15年度の長崎県総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

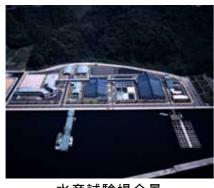
総合水産試験場は、平成9年の供用開始以来今 年で7年目を迎えました。関係の皆様方には、当水 試の試験研究の推進に多大なご支援とご協力を賜 り、厚くお礼申し上げます。

本県水産業の振興のため、様々な施策が実施され ていますが、総合水産試験場では平成13年に策定 した「総合水産試験場試験研究基本計画」に基づき、 水産振興策の実現に向けた技術的な支援のため、各 種の試験研究や技術開発に取り組んでいます。

その中でも「水産資源の的確な評価と有効かつ持 続的利用」、「放流技術の向上による栽培漁業の充 実」、「沿岸環境保全対策の推進」、「水産物の高 付加価値化の推進」などに積極的に取り組んでいま す。

分野別の研究事業件数と事業費

(研究分野)	(件数)	(万円)
水産資源	5	2,237
栽培漁業	4	1,561
沿岸環境	1 0	4,624
保全		
水産養殖	4	2,275
種苗生産	3	7,353
(放流用及び養殖用)		
水産加工	3	1,268
漁業技術・その他	<u>t</u> 3	1,686
合計	3 2	21,004



水産試験場全景

主な事業と新規事業の紹介

(事業費 万円)

1 地域型資源管理予測技術開発試験

309

本県周辺海域の地域特産種(現在の取組魚種 キビナゴ、ミズイカ、タチウオ)の資源管理のため、 資源予測の技術を開発します。

2 干潟活用環境改善方策調査研究

1,058

沿岸環境改善としての干潟の保全・造成手法の開 発に役立てるため、底生生物等の浄化能力について 現場調査や干潟実験装置を用いた実験を行います。

3 高水温対応型食用海藻増養殖技術開発研究

近年の秋~冬期の高水温化傾向に対応した新養 殖種の開発や既存養殖種の管理技術や品種改良に 取り組みます。

4 第2期魚介類種苗量産技術開発研究

5,330

新たな放流用種苗及び養殖用種苗を大量生産す る技術を開発し、県下の種苗生産機関へ技術移転す ることにより、種苗量産技術の実用化を図ります。 (現在の取組種 早期ブリ、ホシガレイ、オニオコ ゼなど)

5 有明海特産種二枚貝類の種苗生産技術開発 (新規) 4 2 3

有明海特産種二枚貝類で資源量の減少が著しい クマサルボウ、スミノエガキなどの種苗生産技術を 開発し、資源の回復に役立てます。

6 低・未利用水産資源利用技術開発

450

低未利用魚種(アイゴ・イスズミなど)の栄養成 分や加工原料特性・最適加工法の把握を行い、加工 による資源の有効活用を図ります。

7 沿岸漁業開発調査

8 5 5

漁業者からの要請に応じた定置網漁場診断等の調査、資源管理型漁業の推進のための試験・調査、及び沿岸漁場の海底地形図の作成などを行います。

新たな連携統括組織の設置と連携プロジェクトへの取組み

横断的・総合的な研究開発を一元的に推進するため、当総合水産試験場を含む県下7つの公設試験研究機関を連携・統括する組織(科学技術振興課)が、本年4月に設置されました。

これに伴い、各公設試連携のもとプロジェクト研究に取り組むことになり、本年度は総合水産試験場が主担当する「藻場再生プロジェクト」を含め二つのプロジェクトに着手します。「藻場再生プロジェクト」については、次号で詳細を紹介する予定です。

おわりに

以上、本年度の取り組みの概要を紹介しましたが、総合水産試験場は、今後とも「開かれた総合水産試験場」として、漁業者の目線に立ち、水産業に直結し役立つ試験研究を推進していきますので、皆様方からご意見、ご要望がありましたら最寄りの水産業普及指導センターか、直接、総合水産試験場までご連絡いただきますようお願いいたします。



本施設で生産したホシガレイ稚魚



調査船「鶴丸」